

【考察と対策】

糖尿病患者に対する、薬物療法による血糖コントロールの実態についての地域における調査結果を報告した。薬物療法による積極的介入にもかかわらず、合併症を防止するための血糖コントロールはまだまだ不十分であることが明らかになった。糖尿病は、専門医の数に比較して患者数が圧倒的に多いことから、大多数が非専門医に診療されていること、また、合併症が多岐にわたるため多くの専門科や多職種での連携が必要であること、などの特徴から、地域での診療連携が重要である。日本糖尿病協会の糖尿病連携手帳は異なる医療機関同士で診療情報を共有できる有益なツールである。しかしながら、本調査で明らかとなっているように糖尿病連携手帳の普及率はまだまだ低く今後啓発活動を展開してゆく必要がある。国立循環器病研究センターでは、(市域の中核病院および医師会・歯科医師会・薬剤師会からなる)豊能圏域糖尿病地域連携クリティカルパス検討会議とともに、連携手帳啓発のためのポスター(添付資料「糖尿病連携手帳啓発ポスター」)を作成し、豊能圏域の診療所 1,330 カ所、歯科 600 カ所、薬局 365 カ所に配布して啓発に努め、地域での診療ネットワークの構築に努力している。

・付記 豊能医療圏の特徴

豊能医療圏には、日本の最先端医療技術を有する国立循環器病センターや大阪大学医学部附属病院を初め、4つの市立病院などの公的病院を含め 46 病院がある。圏域の特徴として、高度専門病院を中心として、早くから圏域内の病院・診療所と連携が進められてきた地域である。他地域に比較して診療所数も多く、医療へのアクセスは良好と考えられている。今回のアンケートでは、豊能圏においても糖尿病患者地域診療体制は十分でないことを明らかにしたものである。